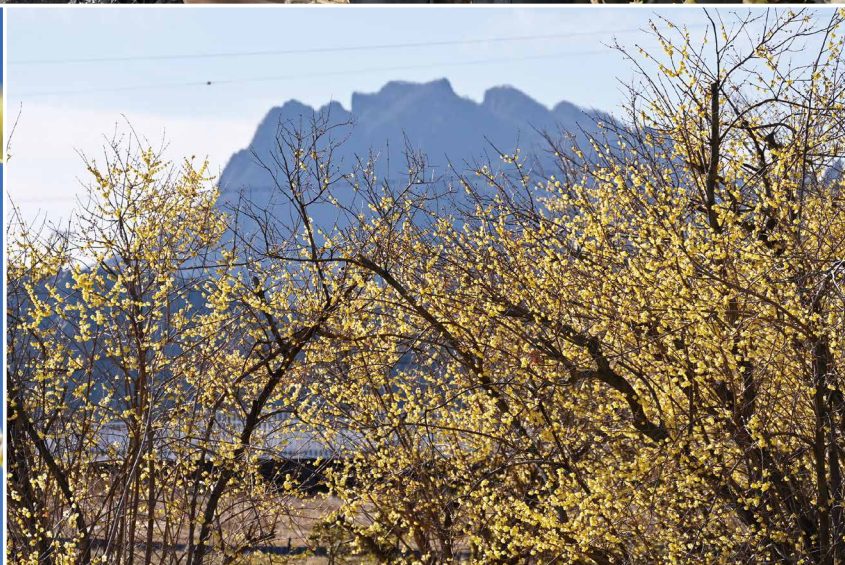


# ロウバイの香りに包まれて

群馬県安中市 農事組合法人ろうばいの郷







群馬県安中市松井田町は、町の東西を旧中山道が通り宿場や関所が置かれるなど、古くから交通の要所として栄えた。「峠の釜めし」で有名な横川駅と碓氷峠鉄道文化むらや、新幹線開通前の大動脈だった旧信越本線廃線跡に残るレンガ造りの通称「めがね橋」といった多くの産業遺産など、観光資源に恵まれた地域でもある。

1月下旬、ロウバイの花が見頃を迎えたと聞いて、安中市松井田町を訪れた。地元住民らでつくる農事組合法人「ろうばいの郷」（理事長・萩原昭一さん）が運営するろうばい園は、奇岩で知られる妙義山を望む上細野原高原にあり、約30年前から地元農家が遊休農地にロウバイを植えて増やしてきたところを、地域内外の有志が協力し「郷づくり」に取り組み、今では3・2ヘクタールの敷地に1万2千本のロウバイが植えられている。

ロウバイは、蠟細工のようなつやと透感のある黄色い花がほのかな甘い香りを漂わせ、厳冬期に開花する珍しい花だ。ろうばいの郷には、原種、基本種、満月、素芯の4種類が植えられ、内側の短い花弁が赤紫色の「基本種」に対して、花弁全体が同色で黄色いものは「素芯」と呼ばれ、素芯の中でも花弁の先が丸い「満月」が園内の多数を占めている。

園内は延長1キロに渡る遊歩道が続き急坂もなく散歩にぴったりのコースだ。途中にはベンチや看板、トイレが整備され、自分のペースで楽しむことができる。ペットの散歩もできる。園内入口ではロウバイの切り花が500円で売られており、ロウバイの香りを自宅でも楽しめることから次々と売れている様子。

この日は冬の澄んだ青空にロウバイの黄色が映える絶好の花日和となった。来園者に話を伺うと、前橋市から来た3人家族は、20年前から毎年来場しており、花のない時期に咲くロウバイを見るとホッとするとそう。基本種と満月の咲き方や開花時期の特







微を教えてくれた。ロウバイの小道を歩きはじめた我が子を撮影する高崎市から来た女性は「ロウバイを初めて見たけど想像以上にきれい」と話す。埼玉県川越市から来た男性は、今日はロウバイの香りが弱く感じたのでスタッフに尋ねたところ「湿度が少ない時は香りが弱く、湿度が多い日には400m先の学校までロウバイの香りが漂う」と聞いて想像を膨らませている様子だ。

園をよく見ると、所々に古い石碑やお地藏さん、お寺の跡などがある。この地はもとも先人が開拓したたくさんの桑畑や田んぼがあり、養蚕と水稲が盛んだった。しかしその後、減反により米づくりが立ち行かなくなったことや養蚕業の衰退により、水田と桑畑が荒廃し遊休農地が増えてきた。こうした状況から、遊休農地を活用し、冬に咲く美しいロウバイの花を植えることにより地域づくりにつなげていこうと、ロウバイの植樹を始めて隣接地に徐々に広がっていった。やがて、地域全体で取り組もうと地域住民による地域活性化のための任意団体を結成し、その後「農事組合法人ろうばいの郷」を平成16年12月に設立して現在に至る。

開園2年目頃にNHKで実況中継されたところ、驚くほどたくさんの方がろうばいの郷を訪れてくれたと萩原さんは振り返る。「ろうばいの郷のスタッフは約40名。近年では地域の高齢化とともにスタッフの数が減少傾向にある。それでも他の地域からも、ロウバイが大好きでスタッフとして参加する人もいる。この日は理事長の萩原昭一さんと、スタッフの石井さんと神澤さんの3名が来園者に対応した。

ロウバイの開花中は原則として休園日はなく、大雪の時でも遊歩道の雪かきをして来園者を迎える。ろうばいの郷の管理における大きな作業として、5月、6月、7月、8月、11月の年







5回は一斉に草刈りを行ったり、冬の開園前と開園後に行う木の剪定がある。ロウバイは1つの株から約30本の木が生える。古い木を抜くのは5〜6人がかりとなる。ロウバイの枝は横に伸びるので顔に当たると手入れに苦労が多い。春に葉が出たあとは12月の落葉まで放っておき、あとは風の吹くままに任せると萩原さんは笑う。

萩原さんは、組合の理事長に就任した時は40代で、会社勤めをしていた。「ろうばいの郷」を通じた地域活動への理解が会社にあったので続けることができた」と振り返る。

地域にとって「ろうばいの郷」はどんな存在なのだろう。「これまでおよそ30年続けてきた、ろうばいの郷の取り組みを通じて、地域住民同士がお互いに優しさをもち、団結力があり、いろいろ話し合える関係にある。地域の人々が協力できる拠り所があることの良さを実感している」と話す。また、ろうばい園にはリピーターが多く、住民が丁寧に管理をしていることが来園者に伝わり喜んでもらえるのが、ろうばい園を続けるモチベーションになっていることも挙げる。

ろうばい園の隠れたおススメは、3年前から植えている470株の福寿草。ロウバイと開花の時期が重なる2月には、遊歩道の上を見上げればロウバイの花が、下を見下ろせば福寿草の花が両方見られることから人気を呼んでいる。

この日の来園者は354人、好天も幸いし今シーズンの開園から2番目に多い来園者となった。ロウバイの香りが、待ち遠しい春の訪れを期待させる。

【連絡先】 農事組合法人ろうばいの郷  
群馬県安中市松井田町上増田3677  
FAX 027-393-5676

